

PIを用いた既設地下横断歩道バリアフリー対策について

北陸地方整備局 長岡国道事務所 交通対策係 越田 有紀

1. はじめに

当事務所では、バリアフリー対策の一環として、新潟県長岡市堀金地区の既設地下横断歩道の改修及び、長岡市新組地区の地下横断歩道の新設の設計を進めている。地下横断歩道が利用者にとって、より使い勝手の良いものとなるよう、市民参画手法（以下、「PI」という。）を取り入れ、ユーザーニーズの設計への反映を試みた。

本報文は、長岡市堀金地区の既設地下横断歩道の改修計画事例を紹介し、PIを実施することで得られた効果・今後の展開について述べるものである。

2. 概要

新潟県長岡市の一般国道8号を横断する堀金地下横断歩道は、長岡駅の北東約1.5kmに位置し、商業施設や中学校に近接している。主に買物や通学に利用されているが、出入口が勾配25%の斜路付階段のため、特に高齢者から、上り下りに支障が生じているという声が多い。

地元町内会からの改修要望もあり、高齢社会へ向けてのバリアフリー対策として改修計画を策定することとした。

当該地下横断歩道は利用者がほぼ限定されているため、日常利用する地元住民のニーズを十分に把握し、利用者にとって使いやすい地下横断歩道とすることが重要と考え、PIを取り入れ、行政と住民との協同作業による改修計画の策定を行った。

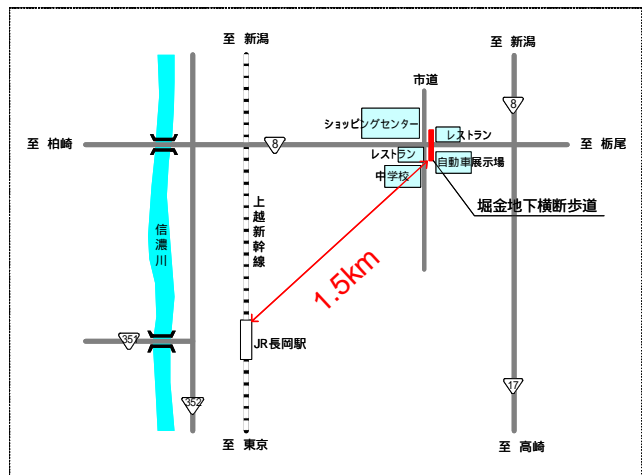


図 - 1 位置図

3. PIの方法

3.1 PIの方法

今回のPIの目的は、地元住民の意見を出来る限り事業に反映することにより、ユーザーにとって最も利便性の高い施設へ改修することにある。また地元住民との協同作業により、公共事業の信用を得、事業の円滑化や供用後の管理面等での住民の自発的な取り組みなども期待できる。

PI手法としては説明会や委員会等も考えられたが、関係する地域住民と行政が直接対話しながら計画策定を行うことが望ましいと考え、地域住民をメンバー主体とした「ワークショップ形式の検討会」方式を採用した。



写真 - 1 検討会の状況

3.2 検討会のメンバー

地域住民のニーズを十分把握し、設計に反映する必要があることから、広く公募することとした。その結果、地域の状況に詳しい地元町内会代表のほか、高齢者、学校関係者、身障者などの参加に配慮してメンバーを選定した。

表 - 1 検討会メンバー

各町内会会長	10人
市議会議員	1人
各老人会会長	2人
防犯協会役員	1人
中学校PTA会長	1人
車椅子利用者	2人
合計	17人

(事務局...長岡国道・長岡市)

3.3 検討会の流れ

検討会は図 - 2 に示すとおり3回開催とした。また検討会の前段階に誰でも自由に参加できる「懇談会」を開催し、検討会設立の承諾と検討会メンバーの承認を得た。これらの結果は毎回かわら版にて地域住民に広報した。

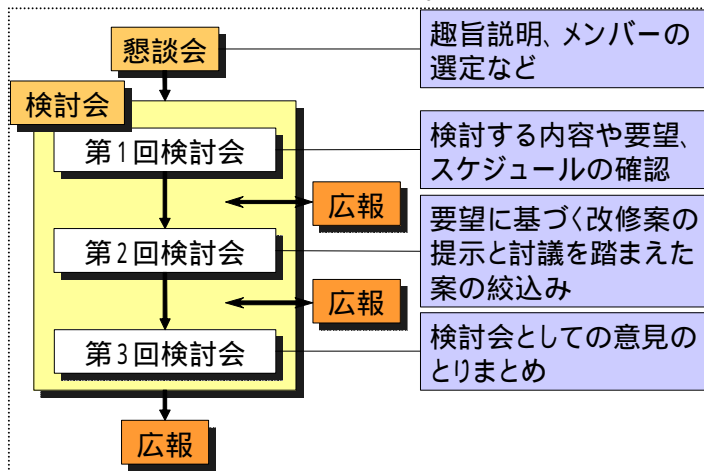


図 - 2 検討会の流れ



図 - 3 かわら版の一例

3.4 検討会運営において特に配慮した事項

検討会位置づけの明確化...本検討会は利用者の使い勝手や周辺への影響、コストや維持管理面から最も利用しやすい改修案を、利用者の視点で取りまとめるものであり、最終案を決定する機関ではないこと、今後の用地買収や各種協議によっては、改修案の見直しもあり得ることについて事前に十分に説明し、了承を得た。
透明性・客観性の確保...検討会メンバーの公募、懇談会の開催、かわら版の配布、地元中学校へのヒアリングの実施など、可能な限り透明性と客観性を確保した。
わかりやすい議事運営...あらかじめ検討会での要決定事項（出入口の向き、勾配等）や前提条件（用地条件等の制約条件）を明確化することにより議論の発散を回避した。またテーブルを傾け勾配を実感してもらう、近隣施設の事例を提示するなど一般の方々へのわかりやすさを工夫した。
情報の共有化...検討会ではメンバー全員が一つの議題に集中し、意見が出やすいように、テーブルに一枚の図面を囲みながらフリートーキングとし、意見をその場で付箋紙にメモし図面に張るなど、和らいだ雰囲気作りと情報の共有化に努めた。

4. 検討会結果

4.1 スロープの勾配

斜路付階段部分は検討会及びヒアリングの際にスロープへの改修要望がほとんどであり、基準を整理し勾配案を提示した。事前の判断はバリアフリー法に則った5%勾配と考えたが、スロープ延長が70mと既設斜路付階段の約4倍になり、かえって使い勝手が損なわれることが懸念事項であった。

表 - 2 傾斜路の勾配

条件	勾配	基準	採用
原則	5%以下	円	
やむを得ない場合	8%以下	円	
(参考)斜路	12%以下	立	
(参考)斜路付階段	25%以下	立	
(参考)階段	50%	立	

円...重点整備地区における移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準(国交省)

立...立体横断施設技術基準・同解説(日本道路協会)

検討会では、現在300m離れた隣の交差点まで迂回している実状を考えると勾配が長くなっても使い勝手に遜色はない、勾配が1%増えただけでも車椅子は苦痛感、危険感が増すため8%などの特例値使用は望ましくないといった意見が多く、5%勾配で合意形成が図られた。また、幅広い世代において圧倒的にスロープの要望が高いことが把握できた。

4.2 スロープの向き

沿道が国道に面した商業施設であり、また各比較案の使い勝手は優劣の差が小さかったため、「用地や景観等を含めた周辺への影響をどう評価するか」という視点で、比較案の検討を行うこととなった。この結果、最も周辺沿道の影響が少ないと判断したスロープ位置を検討会での最終案とした。

表 - 3 スロープの向き

	北側	南側
沿道状況	レストラン	自動車展示場
市道側へスロープ配置した場合の用地買収	堅牢建物であり買収困難と判断	簡易建物のため可能性有りと判断
国道側へのスロープ配置による国道からの視界遮断	上屋透明性確保により可能性ありと判断	自動車展示場のため困難と判断
最良案	国道側へ配置	市道側へ配置

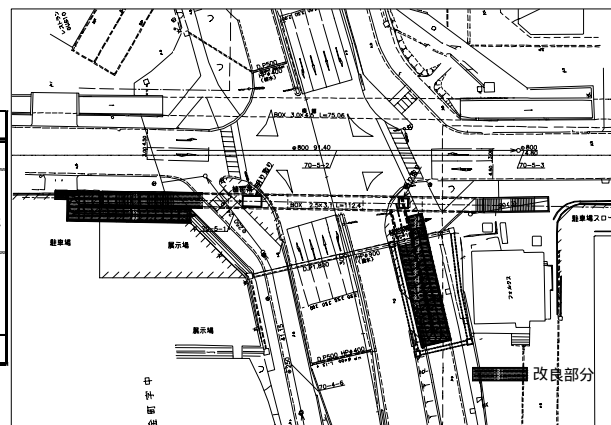


図 - 4 検討会最終案

4.3 上屋の形状

現況の地下歩道内は暗く、防犯上好ましくないとの考えから、上屋をガラス主体として明るい空間を確保することを検討会の最終案とした。

4.4 安全対策

検討会では、地下歩道内での歩行者や車椅子と自転車との交錯を大きく懸念した。対策案として、歩行者と自転車等とをフェンス等で物理的に離隔する方法も考えられたが、圧迫感や危険性が増すことから、路面の色分け、注意標識の設置等を行い、利用者にマナーを守ってもらう方法を検討会での最終案とした。

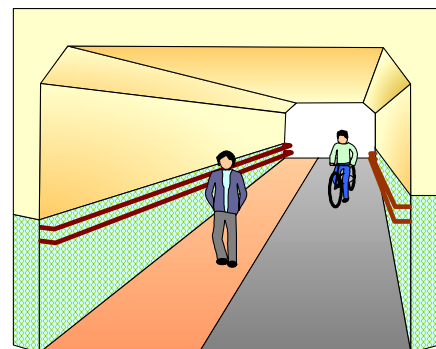


図 - 5 色分けのイメージ

その他の安全対策としては、地下歩道内にインターホン・カメラを設置してはどうかという意見も得

られた。

5. PI実施により得られた成果

計画の早い段階から住民に案を提示し、要望を取り入れながら最良の計画案を作成する手法をとったことで、前述のように、本PI活動の要決定事項について地元意識を把握できたほか、車椅子利用者の“生の声”を住民と共有できたと言える。これにより、地下歩道の計画は地域ニーズをこれまで以上に反映したものとなった。

検討会・かわら版等の広報により住民への情報伝達に努め、計画策定の過程を知る機会を提供できたため、改修計画を理解してもらう上でPIは有効な手段となった。また、これにより、今後の事業円滑化が期待できると考えられる。

6. PI実施上の課題

検討会メンバーが町内会長等に偏ったためヒヤリングなども並行しながら実施し、メンバー以外の声も計画に反映しようと試みたが、限られた人数に留まった。さらに、バリアフリーを検討する際には身体障害者の方々の意見を幅広く取り入れる必要があるが、本PI活動での身体障害者の参加は車椅子利用者だけとなった。検討会は事業者とメンバーが向かい合い、車座になりながら討議を重ねた。従来の事業説明会や公聴会と違い、雰囲気も和らぎ意見も言いやすい環境づくりに心掛けたが、声の大きな人に誘導されやすいケースも一部見受けられた。

これらの対策として、地域住民に広報活動等でPIを広くアピールし、PIの理解を深めていただくことや、検討会の運営を住民代表にお願いするなど、運営方法の見直しを行い住民の意見の幅を広げていく必要がある。さらに、本PI活動で得られた意見を最大限に取り入れた計画を策定していくために、その住民の多様な意見のとりまとめ手法についても今後継続して検討していきたいと考えている。

7. 今後の展開と普及効果

本事業はこれから地権者や関係機関との調整を行い、場合によっては計画案の変更を行い事業実施へ至るが、今回形成した住民との協力関係を無駄にすることなく、今後も可能な限り住民の方に情報を開示しながら事業を進めていくことが重要と考える。また、今後の地権者や関係機関との協議は、今まで築き上げてきた住民との信頼関係を継続するためにも、できるだけ検討会最適案が採用されるよう、誠意と熱意を持って協議を行うことが重要と考える。

本件のように利用者が限定される公共施設（地下横断歩道、横断歩道橋、部分的な歩道整備等）は、真の利用者ニーズ把握が重要であり、またニーズへの対応も比較的容易な場合が多いと思われるため、PI手法の活用は非常に有効である。また、地域密着型の公共施設では、供用後の安全対策や管理方法について、地元住民の積極的な参加が期待できると考えられる。これらを官民一体となって検討していく際には、PIは有効な手段と考えられるため、今後もPIを継続していく予定である。

最後に、本PI実施にあたりご協力頂いた関係各位に感謝いたします。